

# 活動報告

関西学院史  
紀要  
第三十号

## 刊行物

『関西学院史紀要』第32号(2026.03.15発行)目次

### 論文

関西学院とブランデン／中島俊郎

J・C・C・ニュートンにおけるエキュメニズムと倫理思想の研究

前編／神田健次

岩橋武夫とヘレン・ケラーの交友についての試論／室田保夫

竹友藻風、志賀勝、由木康、曾根保、岩橋武夫、寿岳文章(二)

一関西学院の英語教育が育んだ人びと一／井上琢智

松谷基和「関西学院神学部の朝鮮人留学生の実相」に関する一考察／洪伊杓(序文：神田健次)

### オーラルヒストリー

関西学院大学とわたしの民俗学／八木康幸(解題：島村恭則)

### 研究ノート

治安維持法下における関西学院神学部生の弾圧一中森幾之進と三

好麟児に焦点を置いて一／三好直美

### 資料

神崎驥一日記 六／井上琢智

吉岡美国のアメリカ留学(一)

一ヴァンダビルト大学卒業証書・

卒業式次第一／赤江達也

### 記録

神戸・原田の森、知の交差点一関西学院を通じた社会に関する知の形成一／荻野昌弘

関西学院と岩橋武夫一ヘレン・ケラーとの交友を中心に一／室田保夫

### 学院史編纂室共同研究報告

「宣教師研究」舟木讓

「関西学院の戦前・戦中・戦後」井上琢智

「関学オーラルヒストリー」赤江達也

「関西学院の学問と社会」荻野昌弘

「ベーツ日記研究」ベネディクト・T

編集後記／赤江達也

## おもなイベント

2025.06.24 「第59回関西学院史研究会」開催

演題：神戸・原田の森、知の交差点

一関西学院を通じた社会に関する知の形成一

講師：荻野昌弘氏(関西学院理事長、関西学院大学名誉教授)

2025.11.27 「第60回関西学院史研究会」開催

演題：関西学院と岩橋武夫一ヘレン・ケラーとの交友を中心に一

講師：室田保夫氏(関西学院大学名誉教授)



## 資料紹介 「定方塊石氏の不朽の大作」

定方塊石《平和の基督》除幕式(1931年4月18日)

1931年、定方塊石から母校関西学院に絵画《平和の基督》が寄贈され、中央講堂で除幕式が挙行された。除幕式の壇上には、左から吉岡美国名誉院長、H. F. ウッズウォース文学部長、曾木銀次郎副院長、T. H. ヘーデン名誉神学部長、定方の畏友神崎驥一高等商業学部長の5人の姿が見える(写真1)。

『関西学院新聞』では、「定方塊石氏の不朽の大作」という見出しのもとで、この寄贈は関西学院の教育と恩師吉岡美国に対する感謝を表すものであること、《平和の基督》というタイトルは聖句「すべて疲れたるもの重荷を荷へるものは我に來れ」に由来するものであることが報じられた(第63号、1931年4月20日)。

寄贈後の《平和の基督》は、時計台(旧大学図書館)内に飾られた(写真2)。その後、「額装」が「軸装」に変わり、現在は学院史編纂室に所蔵されている。



写真1 中央講堂での除幕式

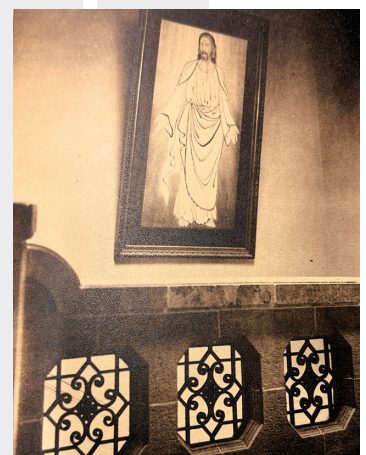


写真2 時計台の《平和の基督》

## 編集後記——総合学園としての関西学院

本号の特集テーマは「短期大学／幼稚園／千里国際」です。西宮聖和キャンパスと千里国際キャンパスの現場を担っている方がたの文章を通して、「総合学園としての関西学院」の現在が浮かび上がってくるはず。本誌バックナンバーをオンラインで公開していますので、第59号の「特集：総合学園」とあわせてお読みいただけたら幸いです。(学院史編纂室長 赤江 達也 あかえ たつや)